

—総括表—		
◆ 事業計画		
<input type="checkbox"/> 地域の現状と今後の方向性 屏風ヶ浦地区は区内でも高齢化率が高い地区であり、また一人暮らし世帯も多い地域である。地形の関係で丘陵地の地域と平地の地域があり、狭い道が多く戸建が中心であるが交通の便が悪い。一方駅前についてはマンション等集合住宅が中心となっているが、高齢者のみの世帯や単身世帯も多くケアプラザへ足を運ぶのが難しい方もいる。 汐見台地区は新しいマンションが建設され、若い世代、年少者数は増加しているが高齢者数が減る事はなく、また単身世帯も多い為相談ケースも増加している。汐見台地区においてもケアプラザまでは坂道となっており、ケアプラザまで足を運ぶのが難しい方が多い。 両地区とも、昔から住む世代と転入されてきた若い世代との交流が難しく、また地域を支えている活動や自治会町内会活動に若い世代の参加が減少している現状があり、担い手不足となっている様子が伺える。 この2年間は新型コロナウイルス感染症予防の制限等により、今まで行ってきた活動が行えない状況が続き、今年度に入りようやく活動再開に向けて少しずつ動き始めている状況にある。 第4期地域福祉保健計画の取組内容を念頭に各地区の様々な活動、行事へ参加し、事務局の機能で後方支援を行い、関わる方々との関係を深めることで、より地域に根付いた関係が構築されるよう、感染状況、社会情勢を確認しながら出来る限り地域へ出向いていきます。 課題としているケアプラザ周知について、ケアプラザニュース等を活用した広報活動を継続的にを行い、高齢者だけではなく多世代の方が利用、相談できる場所であることを継続的に発信します。また、自主活動事業の実施場所をケアプラザだけではなく各町内会単位の集いの場所へ広げる活動を行い、来所が困難な方も含め、より多くの方に周知できるよう働きかけていきます。若年層への直接的アプローチとして、小中学校で実施している認知症サポーター養成講座を通じてケアプラザを紹介することで、更なる周知となるよう地域へ出向いた活動を継続していきます。		
<input type="checkbox"/> 今年度の重点的な取組		
新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	コロナ禍の中、地区の自治会町内会ではサロンや食事会などの地域活動が自粛されている。そのような中、昨年度、第4期磯子区地域福祉計画が始まり、地域活動の状況も工夫を凝らして行われている様子なども聞き取りながら「地域情報サービスリスト(Ayamu)」の最新情報を更新していく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	様々な年齢の方たちを対象とした自主事業を計画、実行する。広報誌や各自治会等へのチラシ掲示依頼などにより、周知に努める。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	汐見台小学校・屏風浦小学校・森中学校・汐見台中学校の4校への認知症サポーター養成講座の開催を今年度も実施する。 ケアプラザを利用されている方や地域の店舗等を中心に、多世代への認知症理解についての周知を行う一環として、前年度実施できなかった一般向け認知症サポーター養成講座を開催する。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ケアプラザ会場での介護予防連続講座および、中原地区において「Yわい広場」を会場とし、介護保険制度や福祉用具についての勉強会やロコモ予防の講座を実施する。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	個別ケア会議の開催件数を増やし、より具体的な地域課題やニーズを吸い上げる。 5職種で共有すると共に地域のケアマネジャーや民生委員へも共有する事で、課題解決に向けての働きかけを行う。
◆ 事業報告・事業実績評価		
<input type="checkbox"/> 振り返り 新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながら、実施可能な範囲で事業実施を行ってきた。地域の方々と一体的に関わる場合については、皆様の意向を尊重した上で提案を行いながら事業の実施を行った。 結果として上記の具体的な取組内容については概ね実施する事ができ、特に新規で計画していた介護予防講座実施について、汐見台地区で新規連続講座実施ができた事は大きな成果であったと感じている。 また、小中学校との関わりの中では2年間中止となっていた生徒さん達の来訪も実現でき、次年度以降コロナとの共存での活動継続に向けての良い例として、今後に活かすことができる。 自主事業申込のWeb化、Ayamuにおける活動団体取材及びデータ更新、プロボノワーカーと登録団体との関係構築サポート等を含め、新たな取り組みも行えた事は、その活動を通して手ごたえも感じる事ができ、次年度に向けて更に地域の活動支援が行える自信にもなると振り返りが出来る年度であった。 今年度の残り期間は次年度計画策定を視野に入れて、地域の方々との関係構築をしっかりと行っていきたいと思う。		
<input type="checkbox"/> 区からのコメント ・屏風ヶ浦、汐見台両地区の特性も踏まえ、地域の方々の主体性を尊重する仕掛けをさりげなく積み重ねるなど、地域の力の向上につなげる工夫が見られました。また、広報誌や学校訪問等を通じてケアプラザの相談機能を周知することで、新たな参加者を呼び込めたり、学校との交流が再開するなど、つながりを広げていただきました。つながりの広がりが地域支援の好循環につながるよう、取組を進めていただければと思います。 ・小中学校との関わりの一つに、認知症サポーター養成講座の開催の継続は今後も大切にしていきたいと思っています。汐見台地区での認知症サポーター養成講座の開催を継続できると良いと思います。認知症については、予防に重点がおかれると、予防できなかった人が悪いといった偏見が生まれやすいです。認知症の正しい理解と対応の啓発に力を入れていただけると幸いです。		